

平成29年度 第2回 沖縄県がん診療連携協議会議事要旨 (案)

日 時 平成29年8月4日 (金) 14:00～16:23
 場 所 琉球大学医学部 管理棟3階 大会議室
 構 成 員 39名 (欠席者5名)

1号委員 (琉大病院長)	藤田 次郎
2号委員 (県立中部病院長)	本竹 秀光 (欠席)
(那覇市立病院長)	屋良 朝雄
3号委員 (県立宮古病院長)	本永 英治
(県立八重山病院長)	依光 たみ枝
(北部地区医師会病院長)	諸喜田 林
5号委員 (沖縄県医師会長)	安里 哲好
6号委員 (沖縄県歯科医師会長)	真境名 勉
7号委員 (沖縄県薬剤師会長)	亀谷 浩昌
8号委員 (沖縄県看護協会会長)	仲座 明美
9号委員 (沖縄県政策参与)	村田 謙二
10号委員 (沖縄県保健医療部長)	砂川 靖 (代理) 糸数 公
11号委員 (琉大がんセンター長)	増田 昌人
12号委員 (琉大医療福祉支援センター長)	藤田 次郎
13号委員 (琉大薬剤部長)	中村 克徳
14号委員 (琉大看護部長)	大嶺 千代美
15号委員 (琉大事務部長)	熊谷 圭司
16号委員 (県立中部病院副病院長)	玉城 和光 (代理) 比嘉 真利子
(県立中部病院血液腫瘍内科部長)	朝倉 義崇
(那覇市立病院外科統括科部長)	宮里 浩
(那覇市立病院外科部長)	友利 寛文
17号委員 (県立宮古病院外科部長)	松村 敏信
(県立宮古病院副院長)	本村 悠子
(県立八重山病院副院長)	渡口 直子 (代理) 宮良 久美江
(県立八重山病院医療部長)	松茂良 力 (欠席)
(北部地区医師会病院副院長・看護部長)	柴山 順子
(北部地区医師会病院副看護部長)	我如古 春美
19号委員 (沖縄県がん患者会連合会相談役)	田仲 康榮 (代理) 安里香代子
(がんの子供を守る会沖縄支部代表)	片倉 政人
(公益社団法人日本ホストミ協会沖縄支部長)	大城 松健
(ゆうかぎの会(離島圏におけるがん患者支援を考える会)会長)	真栄里 隆代
20号委員 (国際医療福祉大学大学院教授)	埴岡 健一
(一般社団法人グループ・ネクサス理事長)	天野 慎介 (欠席)
(沖縄タイムス編集局運動部副部長待遇)	儀間 多美子 (欠席)
21号委員 (琉大病院歯科口腔外科長)	新崎 章
(琉大病院病理部長)	加留部謙之輔
(琉大病院第一外科長)	西巻 正
(琉大病院小児科講師)	百名 伸之 (欠席)
部会報告者 緩和ケア部会長	笹良 剛史
がん政策部会長	埴岡 健一
がん登録部会	高橋 ユカ
研修部会長	増田 昌人
相談支援部会長	島袋 幸代 (代理 増田 昌人)
地域ネットワーク部会長	宮里 浩
普及啓発部会長	松野 和彦

陪 席 者 なし

冒頭

○藤田議長による協議会開会の挨拶があった。

議事要旨・議事録・委員一覧

1. 平成29年度第2回沖縄県がん診療連携協議会幹事会議事要旨(平成29年7月10日開催)

増田委員(11号委員)から、資料1の第2回幹事会議事要旨(平成29年7月10日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、事務局へ申し出ることとした。

2. 平成29年度第1回沖縄県がん診療連携協議会議事要旨(平成29年6月2日開催)

増田委員(11号委員)から、資料2の第1回協議会議事要旨(平成29年6月2日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、事務局へ申し出ることとした。

3. 平成29年度第1回沖縄県がん診療連携協議会議事録(平成29年6月2日開催)

増田委員(11号委員)から、資料3の第1回協議会議事録(平成29年6月2日開催)の確認があった。訂正等が必要な場合は、事務局へ申し出ることとした。

4. 協議会・幹事会・部会委員一覧

増田委員(11号委員)から、資料4に基づき本協議会委員、幹事会及び部会委員の変更について報告があった。

有識者報告事項

1. 埴岡委員報告

埴岡委員(20号委員)から地域別の「NDB標準化レセプト出現比」の活用について、資料5(および資料22)に基づき、以下のとおり説明があった。

・モニターすべき項目を抽出し、課題が見つければ解消策を検討することができるため、NDB標準化レセプト出現比(SCR)データの活用することで、がん診療の質を評価する指標が整備でき、沖縄県のがん診療の質の均てん化を図ることができるのではないかと。

・NDB(SCR)は有力なモニター指標候補で、課題抽出や施策検討、施策効果評価の一部に使える可能性があり、がん診療の質、がん診療提供体制の「議論の質」を高める効果も期待されるが、診療報酬の請求の表れた部分だけであるということ等、限界への留意は必要である。

・診療報酬請求項目の意味と医療現場に熟知していないと指標の選定は困難なため、可能な方は、モニターすべきはどの項目かチェックいただき、また注釈すべき事項について備考欄へ記載いただき、事務局までお知らせいただきたい。

その他、関連して次のような意見等があった。

・安里委員(5号委員)

分析する場合、われわれのような分析を専門としない者でも、しばらく携われれば分析できるようになるのか。都道府県単位だけではなく、二次診療圏、市町村単位でも分析できれば魅力的だと思われる。

・埴岡委員(20号委員)

おそらく分析は可能で、特に医師会のように組織力のあるところは分析力があると思う。その際、病院事務の専門家、診療情報管理士のような診療報酬請求に関する制度に熟知している方およびがんのそれぞれの専門分野の方にチームに入っていただき検討することで、沖縄の地域特性を鑑みて、かなり早期にモニターすべき指標等について、目処が立てられるのではないかとと思われる。また県単位、医療圏単位、市町村単位について、基本的には県単位で、問題のあるところについては医療圏単位でやるとか、医療圏単位でみるべきところは医療圏単位でみて、さらに詳しくみるときには市町村単位でみることもできると思われる。一方、病床機能報告制度あるいは県の機能調査では、施設単位のデータもかなりでてきている。そちらと併せていけば、かなり細やかなこともみることができる。特に在宅系の医療については、二次医療圏単位のみならず、市町村単位の在宅系のDBSCRを見ていき、介護関係のデータも併せて見ていくことが重要ではないかと思われる。

・足立委員(21号委員)

前回の会議の後、このデータを見せていただき、IMRT強度変調放射線治療が全国1位であること

について、これだけではなぜかわからない。すぐに意見を求められても難しい。他の病院についても調べてみないと意見はしにくい。

・西巻委員(21号委員)

大腸がん 男 治療成績 領域(5年生存率 %)において、沖縄県は高知県に次いで悪い。成績の高い県との指標の比較、高知県との指標の比較により、違いや共通点などについて、分析していただくと、核心に近づけるような気がする。項目の順位については、がんの診療に実際に携わる者が協力すべきだと思うが、分析については、われわれが分析するのは無理なので、ぜひ専門家に分析していただきたい。

・埴岡委員(20号委員)

大腸がんプロジェクトのように、科研費等を獲得し、プロジェクトにおいて解明し、全国に貢献されるのがよいのではないかと。比較し、検討することは PDCA の神髄そのものなので、ぜひ仕組みを作っていただきたい。

・真栄里委員(19号委員)

HER2タンパクが南部、宮古、八重山で地域格差がある。どこに住んでいても同じように医療が届けられるように、医療の均てん化のための体制を整えていくためにデータを活用していただきたい。

・宮里委員(16号委員)

データが公になる際には信頼性の担保がないといけな。実際に診療等を行っていても、指導管理料を算定するには、ドクターやナースのマンパワーが必要なため、算定していない状況も多々ある。忙しい病院より、時間に余裕がある病院の方が成績がよくなったりするので、気をつけないといけな。抗体検査についても、同様に注意が必要である。ただし、これらのことの積み重ねをして、なおかつデータの信頼性を高めるということでは非常によいことかと思う。

・埴岡委員(20号委員)

何ががんに関連する項目か、モニターすべき指標は何か情報提供していただき、注釈について備考欄に記載いただくことについて、集約していただきたい。また議論の場を作っていただき、見ていく数値を固めていくプロセスが必要ではないか。もしそれでうまくいけば、患者、医療者、医療機関経営の3方にとってよい指標になる可能性もあるので、検討を続けていただきたい。

・藤田議長

放射線治療は、北部、宮古、八重山ではその設備がない。これこそ大きな地域格差で、解決するのはなかなか難しいと思われるが重要な視点である。一番驚いたのが、がん性疼痛指導管理料の算定が全国でも最低レベルである。さまざまな要因はあると十分理解しているが、やはり緩和治療に専従できる医師をいかに確保しないといけなかということも問題であるし、大腸がんの術後の化学療法実施率も非常に重要な視点である。現在、本院では、緩和のできる医師を雇用しようということで、現在の予定では10月1日から、新たな先生に来ていただき、その方に沖縄県全体の緩和ケアの充実を考えてもらうことを予定している。また沖縄県保健医療部と連携し、埴岡教授のご尽力もいただきながら、大腸がんと放射線治療について、特命で教授を作れないかと協議しているところである。もしそれができれば、その先生を中心に、データを上手に解釈する方法ができていくのではないかと考えている。重要な視点は、自分たちの病院だけではなく、沖縄県全体の医療レベルの向上のために、そういう人材を活用していくということで、埴岡教授からご提案いただいたデータは非常に貴重なものだと思う。

・埴岡委員(20号委員)

・今日で終わりではなく、定点観測で、毎年スクリーニングしていただき、問題点について議論していただくように役立てていただきたい。

2. 天野委員報告

天野委員(20号委員)が欠席のため、詳細は添付資料を各自で確認するよう発言があった。

審議事項

1. 沖縄県第3次がん対策推進計画について

沖縄県保健医療部系数保健衛生統括監(10号委員砂川委員の代理出席)から資料7-1に基づき、沖縄県第3次がん対策推進計画の説明があった。なお、本計画はがん政策部会資料を参考にした旨説明があり、関係者に対して謝辞が述べられた。

埴岡委員(20号委員)から資料7-2に基づき、第3次沖縄県がん計画(がん政策部会案)策定WG議事要旨(第1回~4回)および沖縄県第3次がん対策推進計画に向けたがん政策部会の提言案に

について説明があり、部会WGおよび関係者への謝辞が述べられた。

沖縄県保健医療部糸数保健衛生統括監(10号委員砂川委員の代理出席)から、施策に関する調整、予算の関係もあるので、参考とさせていただきたい旨、発言があった。

その他、関連して次のような意見等があった。

・安里委員(6号委員)

全てのがんに対応して分析するのでは、1年2年かかる。沖縄県の特徴的なものにフォーカスを絞って対策を立てていただきたい。

・藤田議長

沖縄独自のもの、離島・へき地における医療の確保およびがん患者と関係者への支援について、がん患者会の委員において意見を集約し、ぜひ取り入れていただきたい。

・片倉委員(19号委員)

患者家族から聞き取りを行い、意見を取り入れていただきたい。特にAYA世代の方が手薄になっている。長期にわたっての医療および長期フォローについても検討していただきたい。退院後の学校生活、学校行事についていけない。友達や周囲との触れあい等について、学校や教育委員会を含め検討していただきたい。

・埴岡委員(20号委員)

要望というより、一緒に書き込んでいただきたい。他の分野も含め、文章にして事務局まで寄せていただきたい。

・藤田議長

方向性は確認できたので、患者会を中心にご意見をいただきたい。

・西巻委員(21号委員)

安里委員から発言があったように、焦点を絞った方がよいと思われる。第1回協議会でも話題になったが、大腸がんが全国で一番治療成績が悪いという沖縄県独自の問題点が浮き彫りになっていて、具体的に解決すべき問題があるのだから、それについて取り上げる方がよいのではないか。「大腸がん激減プロジェクト」というものがあるが、プロジェクトという一発ものでなく、組織的に施策レベルまで対応しないと大腸がんの治療成績は上がらないのではないか。

・沖縄県保健医療部糸数保健衛生統括監(10号委員砂川委員の代理出席)

たくさん項目が並んでいるので、必要があれば、優先付けや重点的に取り組むべきものについて取り込んだ計画にすることは可能だと思われる。検討会で検討し、調整を行いたい。

・亀谷委員(7号委員)

緩和ケアで全ての専門医療機関にがん専門薬剤師やがん認定薬剤師を配置するという項目があるが、沖縄県は全国一薬剤師の比率が少ない(人口10万人に対し、全国平均は薬剤師170人程度のところ、沖縄県は130人程度しかいない)ので、がんの薬物療法の充実のためにも、沖縄県には、がん専門薬剤師育成について力を入れていただきたい。がん専門薬剤師は、琉大病院に2人いるが、県立病院にはおそらく1人もいないと思われる。

・藤田議長

薬学部がない沖縄県では非常に重い課題だと思われ、すぐには解決できないと思われるが、重要な視点だと思われる。認定看護師についても非常に重要になってくる。がん診療連携協議会と沖縄県が歩み寄り、お互いにアイデアを出し合うというところだと思っている。

2. 研修部会「平成 28 年度事業計画評価」と「平成 29 年度の事業計画」について

増田委員(11号委員)研修部会長から資料8に基づき、研修部会「平成28年度事業計画評価」および「平成29年度の事業計画」について説明があり、今年度の事業計画について進めて行くことが確認された。

その他、関連して次のような意見等があった。

・増田委員(11号委員)

八重山病院でも予定している。

・諸喜田委員(3号委員)

北部地区医師会病院でも検討したい。

3. 平成 29 年度の協議会・幹事会の開催の日時について

増田委員(11号委員)から資料9に基づき、協議会日程(案)の提案があり、調整が必要な場合は、事務局へ申し出ることとした。

4. その他

特になし。

報告事項

1. 第3期がん対策推進基本計画について
2. がん診療に関わる医師に対する緩和ケア研修会の受講率について
3. 「大腸がん激減プロジェクト（仮称）」の活動について
4. 沖縄県がん患者等支援事業の活動報告について
5. 沖縄県地域統括相談支援センターの活動報告について
6. がんゲノム医療推進コンソーシアム懇談会（第2回、第3回、第4回）について
7. 厚生科学審議会（予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会）第26回について
8. がん対策推進協議会（第66回、第67回、第68回）について
9. がん等における緩和ケアの更なる推進に関する検討会（第6回）について
10. がん検診のあり方に関する検討会（第22回）について
11. がん診療提供体制のあり方に関する検討会（第9回）について
12. HTLV-1対策推進協議会（第11回）について

増田委員(11号委員)から資料17～22に基づき、一括して報告があった。

13. その他

部会報告事項

1. 緩和ケア部会

笹良部緩和ケア部会長から資料21に基づき、緩和ケア部会の活動・取り組み状況について、報告があった。

2. がん政策部会

埴岡委員(20号委員、がん政策部会長)から資料22に基づき、がん政策部会の活動・取り組み状況について、報告があった。

3. がん登録部会

高橋がん登録部会長から資料23に基づき、がん登録部会の活動・取り組み状況について、報告があった。

4. 研修部会

増田委員(11号委員、研修部会長)から資料24に基づき、研修部会の活動・取り組み状況、および去る平成29年2月11日(土)に開催された九州・沖縄ブロック 地域相談支援フォーラムについて報告があり、沖縄県および関係病院長等へ謝辞が述べられた。本フォーラムについて高く評価され、本フォーラムが雛形となり、今後、他のブロックにおいて開催が決定した旨、補足があった。

5. 相談支援部会

増田委員(11号委員、相談支援部会副部会長)から資料25に基づき、相談支援部会の活動・取り組み状況について、報告があった。

6. 地域ネットワーク部会

宮里委員(16号委員、地域ネットワーク部会長)から資料26に基づき、地域ネットワーク部会の活動・取り組み状況について、報告があった。

その他

・真栄里委員(19号委員)から、沖縄県の第3次がん対策推進計画で、離島でも必要な分野に関し

ては、どの島でも医療が完結できるようにお願いしたい。どうしても完結できない希少がん、難治がんについては集約化して症例を集め、集中的に治療することも大事だと思うので、その際には、離島がん患者の経済的負担を軽くして、安心して治療できるよう対策もお願いしたい。南部医療センター・こども医療センターにはファミリーハウスがあるが、琉大病院および中部病院等集約化されると思われる病院においても、ファミリーハウスを作るよう計画していただきたい旨、発言があった。

・沖縄県保健医療部糸数保健衛生統括監(10号委員砂川委員の代理出席)から、がんの種類によって地域で完結できるもの、できないものについての案は、昨年度の地域医療構想において増田委員から非常に詳細な資料をいただいたので、それをもとにそれぞれどうするかについて検討を進めていきたい。宿泊施設についての要望は、昨年2分の1補助事業がどのくらい動くかということ、あるいは放射線治療のチケットの現況等、これまで行ってきたものの効果を見ながら、検討していきたい。患者会の活動支援については、今後も行っていきたいとの発言があった。

・村田委員(9号委員)から、当方は知事に対し医療の提言をする立場である。翁長知事は那覇市長時代に本人が胃がんにかかり、手術をし、それを克服し、今に至っているのがんに対して理解がある。本協議会については、知事に伝えているので、特段の配慮をお願いしたい旨、発言があった。

・沖縄県がん患者会連合会田仲委員(19号委員)の代理で出席された安里氏から、正力厚生会および沖縄県からの補助を受け、がんフォーラムおよび移動サロンを計画している旨、発言があった。

・真栄里委員(19号委員)から、来年から緩和ケア認定看護師が沖縄県で育成されることについて、感謝および期待している旨、発言があった。

・仲座委員(8号委員)から、緩和ケア認定看護師について、平成30年および平成31年に合計40名育成予定である。沖縄県からの補助および病院から講師派遣等協力をいただき、ようやく開催の目処がついた。期待に応えられるよう育成していきたい旨、発言があった。

・藤田議長から、感染、褥瘡、緩和ケアの認定看護師養成について、看護協会へ謝辞が述べられた。また沖縄県の補助について、沖縄県へ謝辞が述べられた。